

猿新聞

編集・発行
山村 準
tel:0595-63-1725
Email
jyun.y@asint.jp

先人の遺産シシ垣

しし垣（鹿猪垣・鹿垣）とは、害獣の侵入を防ぐ目的で山と農地との間に石や土などで築いた垣のことで、先人達が、苦勞して、害獣から農作物を守ってきたという苦勞の証拠を、今に伝えるものであり貴重な文化遺産でもあります。

一口にシシ垣といっても色々な種類があり、規模も集落全体を囲んだ長大なものから、個人の田畑を守る小さなもので、さまざまなのがあったようです。

構築法についても、その土地土地で手に入りやすいものが使われ、石を積み上げたもの、土を積み上げたもの、自然の地形を利用したものなど様々があるようです。

近年、林道や宅地造成などで急速に破壊が各地で進んでいるそうで、非常に残念に思います。

矢川にもしし垣が残っている、杉森輝男さんから聞き及び、先日、伊賀の国地名研究会の米沢範彦氏と一緒に案内して頂きました。

現地は、矢川小字百川の長坂地区に隣接している所で、倒木が多く峻な山中に、高さ約1m幅約50cmの土壁が、昔の面影を残し尾根から谷の方へと連なっていました。

構造が土壁構築であるので、経年による風化などで完全な姿を留めてはいませんが、一見してそれと判るもので、先人の苦闘の歴史が刻み込まれた、極めて貴重な文化遺産です。

現状の保存を期待してやみません。

垣の始点、終点は杉森さんにも分からないそうですが、その規模は相当長大なものであることが



る所があるそうです。

米沢範彦氏によると、「赤目町柏原の南端に鹿垣という地名があったことが記録されている」。

「現在のすずらん台から比奈知ダムにかけて、山の尾根の上に空堀をもつ鹿垣が続いていた」。

（読売新聞 伊賀版「いが地名考」より抜粋）

写真Ⅱ矢川前山のしし垣

一頭の犬が守れる範囲には限界があります。

今までの追い払い手法では、MDのいる地域から他の地域に追いやるだけで大きな効果が上がっていないのが実情です。

だが、MD導入後サルへの侵入が皆無という地域もあり、効果の程は立証されています。

いま、MDCでは実際にサルの群のいる山に多頭数のMDを放ち、広域的な追払いの為に地訓練を行うなど、ベストの方法を模索しています。

犬の老化は速いといわれています。

これを踏まえ、この事業を継続、発展させていくには、MD数の拡充を図るのが急務だと思います。

併せて、飼い主の高齢化も、切り離せない重大な問題です。

写真右Ⅱ畠山代表代行挨拶
写真左Ⅱ認定犬集合
写真下Ⅱ認定証授与式

23年度 M・D認定式

H24年3月30日
室生オートキャンプ場にて、
23年度獣害対策犬（MD）の認定式が開催されました。

新認定犬
宇陀市砥取1頭
名張市布生1頭
竜口1頭

再認定犬
宇陀市 5頭
名張市 6頭

今までのMDはそれぞれ市内のみの活動でしたが今回は、高レベルの訓練を修了し、両市にまたがり活動できるようになりました。

野生動物追い払い犬は、長野県大町市が皮切りに全国的に、その効果が理解され広まっています。

名張市では、宇陀市と宇陀・名張地域鳥獣害防止広域対策協議会を組織し、MD導入から3年を迎えます。県境をまたいで20頭余のMDが活躍している地域は全国的に珍しいと言われています。



写真右Ⅱ畠山代表代行挨拶
写真左Ⅱ認定犬集合
写真下Ⅱ認定証授与式

ハナレサルに注意!!



最近、ハナレサルの出没が相次いでいます。

矢川には、体型が大小の2頭が出没しています。

ハナレサルは、群れを離れて独り立ちしたばかりの4〜5歳の雄です。

大人になった雄は群れを離れることは二ホンザルの習性です。

中山間地域は無論、市街地でも、庭の果樹や家庭菜園が多く、彼らにとって、決して棲みにくい環境ではありません。

ハナレサルを見つけて、そのまま放っておくと、居着いてしまいます。

見つけたら必ず、集落総出で追い払うことが重要です。

「人里に近づけば危ない」という意識をサルに持たせることが大事です。

今後、夏野菜などに被害が及ぶようなことがあれば、捕獲も検討しなければなりません。

群に対しての対策はサ

状況を示しています。

2月頃からR165から南方、西谷、長坂、星川方面に始め通常に戻りつつあります。

だが、出没率は依然としてR165北方の三本松周辺は多いです。

MDの効果で矢川近辺は群の出没を示す矢印がありませんが、ハナレサルの出沒が相次いでいます。

ハナレサルは、事前情報に目視以外に無く対策に手を焼いています。

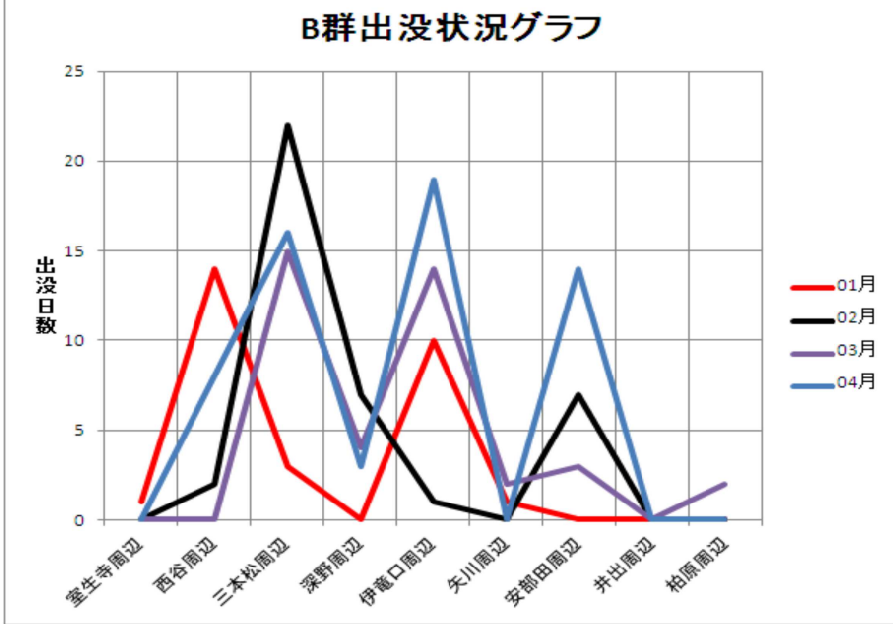
人慣れが進み民家にも平気で侵入し、ゲリラ的な被害が出ています。

矢川地区では、納屋に保存してある玉葱、芋などに被害が出ています。

納屋には必ず施錠を施

B群移動状況

左図はB群3月の移動



MDC総会開催

モンキードッグ倶楽部第二回総会開催
4月16日の月曜日、奈良県宇陀市室「ぬく森の郷」で第二回総会を開催。

平日にもかかわらず、名張・宇陀両市議会議員を含む会員21名出席のほか、来賓として「宇陀名張地

域鳥獣害防止広域対策協議会」の行政関係者、MDの活動区域である見郎光生（矢川区長）や藤山治久（黒田区長）、浦清治（室生深野区長）、姫野正巳（赤目星川区長）、飯島幸雄（つじヶ丘第9区長）らのご臨席を得て盛会に終えた。

議題はこれまでの活動経過、会計報告、本年度活動計画の中で認定MDの更新の追い払い訓練の充実やサル出沒区域への複数追い継続などについて、会員の賛同を得た。

来賓の協議会会長からも「21頭のMD数や県境を越えた獣害対策は全国的にも珍しく、今後もMDCとも連携しながら更なる獣害対策を講じていきたい」という挨拶を頂いた。

また、協議会としては「獣害対策のなかでMDの存在を大きくしたい」という山端氏の講演に共感した。

モミジ・団十郎が「サル追い払い」が出来るのも、地域の皆さんの獣害対策意識の高さと協力の賜であります。今後ともよろしく願います。

レポーター MDC 畠山

私、出席予定のところ生憎、風邪をひき欠席。

★最近、ハナレサルの出沒が相次いでるので、捕獲檻を設置して頂きました。

場所が檜谷池の春日神社寄りの横山様の小屋の横です。

立札を立て明示してありますが、くれぐれもご注意をお願いします。

う考えは変わらないが、国の予算関係もあり従来と同様の育成方法になるかは未だ協議段階」との説明もあった。

MDCが昨年来より「MD活動区域が名張・宇陀の両市域であること」を要望していた点について、両市をまたがって追い払い活動が出来る『広域認定犬』という制度を速やかに取り入れて頂いた事にはありがたいことである。

しかし1・2期MD19頭から本年3月認定の3期生3頭を加え21頭のMDが揃っているが、両市にはまだまだ集落全体での獣害対策の取り組みが浸透していないという課題もある。

「三重県農業研究員・山端直人氏」

「MDが多数いても」、集落の対策意識や環境管理、が整っていないければ防除は成功しない。

という山端氏の講演に共感した。